

2019年度 第1回 複合型サービスきょうりつ（看護小規模多機能型居宅介護）
運営推進会議議事録

日時：2019年5月24日(金) 14:00～15:00

場所：あやべ協立診療所3F 複合型サービスきょうりつ家族談話室

参加者：綾部市地域包括支援センター：四方 繭子様・梅原 奈緒様

中部地域包括支援センター：小野 明日香様

(計画作成担当者)：白波瀬 実・村上 陽子

(介護職)：大槻 智之

欠席者：地域住民の代表(民生委員)：安達 一男様

複合型(管理者)：大槻 美智代

1、報告事項

・4月実績：延べ登録者数 26名

短期利用 0名

・平均介護度：2.58

・利用地域：青野、幸通、上野、宮代町、黒谷、小貝、広小路、物部、高津、神宮寺、
綾中、若松、篠田、位田、本町、於与岐、館、里、多田、栗、(大島)

()…新規

・サービス別 延べ提供数

通い：398回 泊り：165回

訪問(介護)：262回 訪問(看護)：43回

全サービス提供回数 868回 (一人あたり週平均サービス提供回数 6.9回)

(前回2月の実績) 延べ登録者数 28名 平均介護度 2.89

通い：450回 泊り：207回 訪問(介護)：225回 訪問(看護)：52回

全サービス提供回数 934回 (一人あたり週平均サービス提供回数 6.4回)

・利用状況…2~4月に7名の方が終了。小規模事業として、ゆったりとした雰囲気となっている。退院に向け、複合型利用申込み・問い合わせが続いている。数ヶ月で定員限度まで増加する可能性もある状況。

・サービスごとの特徴

通いサービス…利用者ごとに回数は違う。毎日のように通い利用されるケースもある。
泊りサービス…家族介護が困難になって来られている方は、ほぼ毎日宿泊となっている方もある。今後の在宅介護が困難なため、施設入所待ちの方もいる。

訪問(介護)…増加傾向。1日2回訪問の方は昼食や服薬確認を行っている。訪問時間は必要に応じて短時間でも訪問している。

訪問(看護)…24時間電話連絡出来る状態。体調の変化等相談があれば対応している。
ターミナルケア…最期まで利用できる。診療所と連携が取れる体制となっている。

2、地域や介護サービスの課題

綾部市の少子高齢化は、全国的に見ても早く進んでいる状況。施設入所が徐々に困難になっている状況。地域包括ケアの時代となり、看護小規模多機能のような最期まで地域での生活を支える役割が大きくなっている。

長期入所が困難な場合は、入院や老人保健施設で一時的に利用されるケースもある。医療機関入院期間も厳密になり、退院が迫っても自宅での生活に不安がある場合がある。

介護施設職員の人材不足が課題となっている。家族が同居で介護することが少なくなっている。日中独居者も多くある。

外国の人材に期待する声もあるが、利用者とのコミュニケーションに不安を感じる。介護職員の処遇改善を進めている状況もある。社会的な「介護職」に対するイメージの向上も必要。

3、地域の状況、要望助言

毎年、夏季の高齢者に対する熱中症に注意が必要。近隣地域での見守りが必要と感じる。中部包括では訪問時、頭痛を訴えるケースがあった。5月でも気温の変化大きく、朝・夕の温度変化から衣類管理が難しくなっている。高齢になると喉の乾きが感じにくくなる方もある。エアコンの温度設定を介護支援者が行う方もある。エアコン自体が設置されていない自宅もある。今までエアコンが無い環境で過ごして来られたが、近年の気温の高い状況から必要性が高まっていると感じる。

綾部市の行方不明者早期発見 SOS ネットワークに警察も含めた連絡体制づくりが進められている。認知症を患う高齢者の火の取り扱いが心配される。「認知症＝施設入所」とならない地域づくりを考えたい。

介護認定期間が2年から3年に長くなる制度改定も行われた。今後、要介護認定者も増える傾向と思われる。介護サービス事業所のニーズが大きくなる状況。綾部市でも1件、訪問看護ステーションが開設されたとの情報あり。

運営推進会議での外部評価や議事録はホームページで公開している。複合型サービスきょうりつが開設して4年が経過。開設時に介護経験の無い職員も一緒に、手探りで事業運営を進めて来た。今後、綾部市内の小規模多機能事業所間での連携も進めて行きたい。

地域の中で、介護サービスに関する情報が不足している状況もある。啓発を進める必要性を感じる。

4、その他

ひだまりカフェ 5月25日(土) 9:30～ 物忘れが目立ってきた方や、ご家族・地域の方の相談の場所。“居場所づくり”との位置づけとしても広めて行きたい。

○ 次回、運営推進会議日程 2019年7月26日(金) 14時～

以上